

令和六年十一月四日(月・祝)

GINZA SIX

於観世能楽堂

午後五時開演

長唄 二世 花柳壽楽・振付
石 橋

長唄 二世 花柳壽楽・振付
扇 の 寺

東国の白拍子 花 柳 寿 楽
笛吹く男 藤 間 蘭 黄



二世 花柳壽楽・振付
石橋

長唄 許屋勝四郎 連中
 許屋栄八郎
 雑子 堅田新十郎 社中

花柳壽楽

寂昭法師が唐の国にわたり霊峰天台山に登ろうとしますが、目もくらむような谷にかかる「石橋」は、とても渡れそうにもありません。すると、立ち尽くす法師のまえに文殊菩薩が乗る獅子があらわれて、橋の上で牡丹の花とたわむれながら軽々と舞ってみせるのでした。人間国宝二世花柳壽楽の振付による「石橋」は一人立ちの素踊り作品として高く評価され幾たびとなく上演されております。

二世 花柳壽楽・振付
扇の寺

東国の白拍子 花柳 寿楽
 笛吹く男 藤間 蘭黄
 長唄 許屋勝四郎 連中
 許屋栄八郎
 箏 中川 敬裕
 囃子 堅田新十郎 社中

能の「班女」を下敷きに二世花柳壽楽が創作した一途な思いと淡い恋心、花に舞う優美な舞で描いた素踊りの名作。白拍子と恋仲になった公達、別れ際に一本の扇を差し出して「春の念仏会であなたがこの扇で舞ってくれたら、きつとまた会えるよ」と言い残した。恋焦がれて春を待ちきれず京へ向かった白拍子は途中一人の笛吹く男と道連れに。恋しい人とめぐり逢ぬまま白拍子の心は次第に狂い乱れる。「恋しき人に会わせてほしい、会わせて下さい」すがり泣く白拍子にいつしか心ひかれるようになった男は二本の扇を差し出す。「古い扇のことは忘れこの新しい扇で共に舞ってはくれまいか」けれど白拍子は古い扇だけを手に、再び彼方夕闇に消え去っていった。

白拍子：平安時代末期から室町時代初期にかけて行われた歌舞を演じた舞女
 公達：貴族など身分の高い家柄の青年

花柳 寿楽

重要無形文化財「日本舞踊」総合指定保持者。幼少より人間国宝である、二世花柳壽楽に師事。2009年三代目花柳壽楽を襲名。「どうする家康」「光る君へ」「べらぼう」など多くのNHK作品、蛭川作品をはじめとする多くの商業演劇舞台、歌舞伎公演や宝塚歌劇の振付所作に携わる。国内公演に加え近年ではアスタナ、ドバイなど国際博覧会（万博）日本公式催事にて日本舞踊パフォーマンスを上演するなど海外に向けた日本舞踊の発信、国立劇場伝統芸能伝承者養成所、宝塚歌劇団、学習院女子中・高等科日舞部講師、花柳壽楽舞踊教室にて後人の育成にも尽力している。様々な舞台でみせる気品ある表現力と技術はつとに評価が高く、芸術選奨文部科学大臣賞、日本芸術院賞など多数受賞。本年度春、紫綬褒章受章。五耀會同人。

写真 藤山紀信



藤間 蘭黄

重要無形文化財「日本舞踊」総合指定保持者。5歳から、人間国宝である祖母、藤間藤子、母、蘭景より踊りの手ほどきを受け、6歳で初舞台。長唄、囃子、能楽、茶道の研鑽も積む。家に伝わる古典の継承とともに、ゲーテ「ファウスト」を一人で演じる『禍神』、「セビリアの理髪師」の舞台を江戸に移した『徒用心』、戦国時代をパレエ・ダンサーとのコラボレーション作品『信長』など、創作作品を国内外にて積極的に発表している。2017年文化庁文化交流使として世界を巡り、以降も海外活動を精力的に行なっている。2018年からは「日本舞踊の可能性」公演を主催、芸術監督として日本舞踊の更なる可能性を提示し続けている。芸術選奨文部科学大臣賞、日本芸術院賞、紫綬褒章など多数受章。五耀會同人。

写真 藤山紀信



お切符代 SS席(指定)10,000円 S席(指定)8,000円 A席(指定)6,000円

お切符のお申込み・お問い合わせ

E-mail: hanayagijuraku@gmail.com

FAX: 03-3478-5070



Webお申込みはこちら

会場 **観世能楽堂** (GINZA SIX 地下3階)
 〒104-0061 東京都中央区銀座6-10-1 GINZA SIX 地下3階
 TEL.03 (6274) 6579



アクセス 東京メトロ[銀座線][丸ノ内線][日比谷線]銀座駅から徒歩5分